

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 3 1】
添付ファイル: 無意識にまぶたを閉じる「眼瞼けいれん」、治療法は？ : 朝日新聞デジタル.pdf; てんかんの合理的薬物治療 (久郷敏明) __新興医学出版.pdf; てんかん学の臨床 (久郷敏明) __星和書店.pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 300 カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、**BYA-HP の「お問合せ」**をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3)情報の中で「**拡散すべき情報**」があれば、皆さんの判断で「**転送・SNS 拡散**」してください。
- (4)また、皆さんが支援する政党があれば、**ベンゾジアゼピン薬害の実態を政党にお伝えください。**

【目次】

1. 無意識にまぶたを閉じる「眼瞼けいれん」、治療法は？ (添付)
- 2-1. てんかんの合理的薬物治療 (久郷敏明) __新興医学出版 (添付)
- 2-2. てんかん学の臨床 (久郷敏明) __星和書店 (添付)
3. 手を出せば戻れぬ負の連鎖 尻尻容疑者も「使った」MDMA、依存への入り口

【記事】

1. 無意識にまぶたを閉じる「眼瞼けいれん」、治療法は？ (添付)
<https://www.asahi.com/articles/ASMC7669BMC7ULBJ016.html>

以下引用

『Q 原因は。

A 運動の調整などをする脳の基底核を含む回路の伝達の異常だと考えられています。簡単に言えば、脳の誤作動です。誤作動する原因はよくわかっていません。ほとんどの患者は40歳以降に発症し、女性の方が2倍ほど多い一方で、**抗不安薬のベンゾジアゼピン系などの薬の服用もリスク**と考えられています。』

- 2-1. てんかんの合理的薬物治療 (久郷敏明) __新興医学出版 (添付)

クロナゼパム (リボトリール、ランドセン) は「てんかん専門薬」として製剤されているが、臨床現場では「強力なベンゾジアゼピン」として、種々の神経症状に汎用されている結果、多くの副作用患者を生じている。その副作用を調べるには「てんかん治療場面」での医学文献を見ると明らかになるので、シリーズで掲載する。

以下引用

『しかしこれらの薬物は、治療効果における**耐性の出現、用量依存性の副作用から、決して使用しやすい薬物ではない**。すなわち、短期的には有効であるが、耐性による効果の減弱が起こる。そのために増量の必要が起こるが、これは副作用の増加を意味する。したがって、**これらの薬物は第一選択薬物にはならない**。あくまでも、難治例に対する補助的薬物と考えるべきである。』

『著者らは、これらの薬物を使用する時には、極力少量にとどめている。患者が眠気を訴えない範囲の投与量が基準となる。**クロナゼパムについては、成人患者**

であっても 3mg/日以上を用いることは例外的である。』

『副作用

主要なものは眠気、失調であり、これらは**用量依存性**である。

最も慎重な配慮が必要な副作用は、患者の精神症状に対する影響である。**クロナゼパムの向精神作用は“二面的”**といわれているが、**時に行動異常などが誘発されることがある。』**

2-2. てんかん学の臨床（久郷敏明）__星和書店（添付）

以下引用

『AED（抗てんかん薬）としてのすべてのBZP（ベンゾジアゼピン）に共通する短所は、投与初期には有効であるが、連用するうちに治療効果が失われるという、慣れないし耐性と呼ばれる現象の出現が避けられないことである。耐性が出現すれば増量が必要になるが、鎮静性の副作用が増加し、さらなる耐性が生じるという悪循環に陥る。』（377-378 頁）

『BZP（ベンゾジアゼピン）の多くは抗不安作用を示すが、患者の精神機能への影響には慎重な配慮が必要になる。特にCZP（クロナゼパム）治療では、精神症状のない患者はそれが誘発される危険性があり、精神症状のある患者はそれが改善する可能性があるという、二面的と呼ばれる向精神作用が指摘されている。BZP（ベンゾジアゼピン）治療では、投与量が一定の臨界点を超えると、逆説的な発作が誘発される危険性がある。』（379 頁）

『抗不安薬と中枢刺激剤

抗不安作用に由来する利点として、内的不安の強いてんかん患者では、BZP（ベンゾジアゼピン）が発作の抑制にも有効に作用することがある。しかし、CZP（クロナゼパム）の例にみられるように、この系統の薬物の向精神作用は二面的であることにも注意を促しておきたい。すなわち、精神症状を悪化させる危険性も内在しているということである。さらに、長期間の連用によって薬物依存が生じることもある。治療的意義がない無意味な長期投与は慎むべきである。』（413 頁）

すなわち、ベンゾジアゼピン系抗てんかん薬のクロナゼパム（リボトリール、ランドセン）は投与初期には効果があるが、やがて薬物耐性を生じるため、同じ効果を得るためには増量するしかないの、やがて薬物依存に至り、精神疾患を発症させるリスクがあり、第1選択薬にならない。また、それを「てんかんでない神経症状」に適応外処方すれば、クロナゼパムは最高力価のベンゾジアゼピンであるため、想定外の重篤な副作用（薬物依存、離脱症状、奇異反応）を発症するのは必至である。

3. 手を出せば戻れぬ負の連鎖 沢尻容疑者も「使った」MDMA、依存への入り口

<https://mainichi.jp/articles/20191119/k00/00m/040/259000c>

沢尻エリカ容疑者、激しい感情の起伏は禁断症状か

<https://www.sanspo.com/geino/news/20191119/sca19111905020001-n1.html>

以下引用

『合成麻薬 MDMA の所持容疑で 16 日に逮捕された俳優の沢尻エリカ容疑者（33）は警視庁の調べに「大麻、MDMA、LSD、コカインを使用していた」と供述し、10 年以上の薬物歴を明らかにしたという。大麻や MDMA は薬物の「ゲートウエー（入り口）ドラッグ」とも言われ、検挙される人数が増えている。専門家は「若者世代への対策を強化すべきだ」と警鐘を鳴らす。』

違法薬物使用者は「心の痛みから SOS しており、刑罰よりも治療のため

罪を寛容にするべきだ」(NCNP 松本俊彦)との意見は、完全な間違いである。
もし、そういう措置を採れば、日本は米国に次いで「違法薬物大国」になる。

注釈：お送りしている本情報提供メールは、同じものを以下の BYA-HP に掲載しています（添付資料を含め）。**バックナンバーもチェック**できます。高容量のメールを受信できない方は、「BYA 情報提供メール」のページを検索エンジンでご覧ください。スマホの方は**添付資料の拡張子を開けられるアプリ**をインストールしてください。

<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/%EF%BD%82%EF%BD%99%EF%BD%81%E6%83%85%E5%A0%B1%E6%8F%90%E4%BE%9B%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB/>



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史

協議会の連絡先

愛知県及び東京都に連絡先を置く

愛知県（暫定仮）

柴田・羽賀法律事務所

〒461-0001 名古屋市東区泉1-1-35

ハイエスト久屋5F Tel : 052-953-6011

